

めぐる みやぎのアーティスト SOUPのホップステップジャンプ
 くりのほらのアート展
 みつける つなげる

in 風の沢ミュージアム

障害のある人や市民、アーティストが参加して行う「みつける／つなげるワークショップ」で生まれた作品と、SOUPがぜひご紹介したい宮城県の作家の作品展示を行います。

初めての栗原での展覧会、みなさんと一緒に育てていきたいと思っています。

どうぞ何度でも、会場に足をお運びください。



【事務局・お問い合わせ先】
 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局
 〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地 みやぎNPOプラザ内No.16
 TEL.070-5328-4208 Email: soup@ableart.org
 Web: http://soup.ableart.org/

【主催】特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
 【協力団体】医療法人財団姉齒松風会・栗原市東部地域活動支援センターたんぼぼ、風の沢ミュージアム、特定非営利活動法人婦園田居創生機構、社会福祉法人栗原秀峰会障害福祉サービス事業所すぶりんく・障害者相談支援センターあらいぶ、特定非営利活動法人多夢多夢舎中山工房
 【キュレーション】①②③瀬尾夏美④中村紋子【映像】③小森はるか【マップデザイン・イラストレーション】瀬尾夏美

SOUP セレクト!

SOUP がぜひご紹介したい、宮城県の作家たち

① 片寄大介 Katayose Daisuke

1983 年生まれ、仙台市在住。

10才の頃に絵画教室に通い始めたことをきっかけに、絵に興味を持つ。幼少の頃から楽器で遊ぶことが好きで、13 歳からはエレキギターや太鼓の演奏を始める。所属している多夢多夢舎では、線だけの表現「dot-line」シリーズを描き、ポーチやペンケースの製品としている。2014 年頃からはキャンバスにアクリル絵の具での制作が主体となっている。初期の作品は、色を塗り重ねた抽象的な形のなかにアルファベット・数字などが描かれることが特徴。現在は「ふね」「月」「トトロ」などのモチーフを中心に、多くの作品を描いている。



片寄大介
(左/下) アクリル絵の具・キャンバス



松浦 繁 (左) 白鳥 | 木・水彩絵の具 / (右) 守り神 | 木・水彩絵の具
Photo by Ayako Nakamura

② 松浦 繁 Matsuura Shigeru

1971 年生まれ、大河原町出身・仙台市在住。

高校卒業後、自動車整備士として働く。1990 年、脳内出血に罹り、4 年間の闘病とリハビリの生活の中で木彫と出会う。退院後、木彫教室『アトリエ 創』に通うようになり、以後、一年に一作品のペースで制作を続けている。2012 年、SARP (仙台市) で個展を開催。半身麻痺により左手のみで制作を行うため、道具や作業場にはさまざまな工夫が凝らされている。鮮やかでやわらかい色彩は、水彩絵の具によるもの。初期は電動ノミで制作を行い、小柄で丸みのある作品を多く制作。現在はノコギリとナタも用いた大きな作品を中心に制作している。

③ 大竹徹祐 Otake Michihiro

1977 年生まれ、亶理郡在住。

幼少期、自分を負おう母親の背中に絵や文字を描いたのがはじまりで、以降ずっと描き続けている。支援学校在学時、先生に絵の才能を見出され、育てられる。2004 年、花や動物などのモチーフを描き、日本画の先生との 2 人展に参加。一時福祉事業所に通い、手仕事で制作したケナフやコピー用紙に、マジックを用いた線画を多数描く。現在は自宅で日々を過ごし、幼い頃に見たテレビ番組や数年前に描いたモチーフを、記憶だけを頼りに繰り返し描いている。絵の合間にはキーボードで自作の曲を弾いたり、紙粘土による立体物の制作も行っている。



大竹徹祐
(左/右) サインペン・紙

④ 佐藤真彦 Sato masahiko

1983 年生まれ、仙台市在住。

ニックネームはマッチくん。動物図鑑を見ながら、好きな動物を描くことが多い。独特の線で描かれた動物の柄の [tam tam dot × ポーチ] は、雑貨屋やイベントなど、多くの会場で人気を博している。風景を描くのも好きで、かならず絵と詩はセットで描く。今回の屋外展示には、「みんなが平和なきもちになるといい。あと熊ちゃんや鹿ちゃんにも読んでほしい。」とのこと。



佐藤真彦 | 水星 | サインペン・ボールペン・紙

みつける / ながる ワークショップ

はじめましての栗原で、栗原のみなさんとアーティストやエドゥケーターと一緒に作った展示

A. ふうけいときおくを描く

ファシリテーター：瀬尾夏美 (画家、作家)

栗原市東部活動支援センター“たんぼぼ”のみなさんと一緒に、2 日間に渡って絵を描くワークショップ。1 日目は栗原の秋の風景を手分けして描き、2 日目は各々が選んだ写真を描きました。絵筆を持つのは学生時代以来という方がほとんどのなか始まりましたが、迷いながらもじっくり丁寧に線を引いていく方、躊躇無く大胆不敵に色をのせていく方など、作業のひとつひとつにも個性が表れます。出来上がって来た絵ももちろん、それぞれに魅力的なものに仕上がりました。みんなで作る栗原の風景とひとりひとりが持っている記憶。ぜひ、ご覧ください。

B. いろと遊ぶ

ファシリテーター：土屋麻美 (エドゥケーター)

社会福祉法人栗原秀峰会“すぶりんぐ”のみなさんとのワークショップ。何か描くわけではなく (!) たっぴりの絵の具と遊ぶように、大きな布に色を塗ってみました。「いいなあ！」と言いあって出来上がった布は、さをり織りの名残糸たちとともに、風の沢の里山に編み込むようにみんなが飾ってくれました。自分で見て、誰かに見てもらって…この機会が、あたらしい楽しさや面白さを自分の感覚とつなげていける、はじまりになりますように。



Photo by Ayako Nakamura

C. タムタム × 栗原のみなさま × トワル再利用プロジェクト

ファシリテーター：中村紋子 (美術家)

洋服のデザインサンプルとしてつくられる“トワル”。産業廃棄物として捨てられていましたが、それに描いたり、塗ったり、縫ったり！自分だけの服に生まれ変わらせるのがトワル再利用プロジェクト。仙台多夢多夢舎では 1 年前から新しい服作りをはじめ、ワークショップの開催などで新しい友だちをつくるべく交流をしてきました。今回は栗原に多夢多夢舎のなかまたちが遊びに来て、一緒に服作り！みんなでの楽しい時間とすてきな服を創ります。

● 会期中イベント ●「タムタムと、めぐるトワル」
11 月 12 日 (土) 11:00-14:00